
聖なる夜に

珠城 綵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖なる夜に

【著者名】

Z8134Z

【作者名】

珠城 綵

【あらすじ】

クリスマスの話です。妹にドタキャンされた可哀想なおにこちゃんの話。こんなこともあるんですね。

ヒツヒツの日がやつてきた。

「・・・クリスマスとか、オレには関係ねえし」

口に出して言つほど間抜けなことはないな、全く。

しかも、誰に食べてもうわけでもなく料理やらケーキやらの準備しながら言つ台詞でもない。

そもそもこんな予定じゃなかつたんだ。

毎年毎年、暇だからつて転がり込んでくる妹がさつきなり今年は彼氏とデートだから行かないとかメールしてきた。何も作つてないと怒るからつてしつかり食い物の材料用意してたのに、とは言えなかつた。

・・・さすがに言えんだる、兄としては。
にしても、こんだけ作つてどうするんだオレ。あ、ちなみにもうすぐ実家に戻る予定だから材料消費しないといけないというか、ふつー5時過ぎにメールいれるか畜生。

ちなみに、今日のメニューはどうとだな。

- ・前菜：鯛のカルパッチョ
 - ・スープ：ガスパチヨ
 - ・メイン：ローストチキン
 - ・デザート：ホワイトチョコレートケーキ
- その他チーズやらキッシュやらクロックムッシュやら・・・多いのは自分でもわかつてるさ・・・。

さて、ほとんど作り終わつてゐるんだが。さて、本当にひつしたものか・・・いろんな時間に暇なヤツなんて・・・。

ぴーんぽーん

「え?」

「なんだつてこんな日。とつあえず出てみるか。

「どちら様です・・・」

「おー!こーき居るじゃんー!開けろよ!」

インター ホンに出ると悪友が2人映つてるのが見えた。正面にいる翔がすっげーテンションで手振つてゐるし。

「お前ら、何しに・・・」

「いーからいいから」

「さつさと開けろよ、寒いし」

後ろに居たのは悠みたいだ。

こいつら、暇だからつて何しに来たんだ?

「わかつたわかつた、ちょっと待つてろ」

仕方ないし、開けてやるか。

玄関に行つて鍵を開けると、2人は大きな買い物袋持つて扉の前に突つ立つてた。

「・・・まあ、入れば?」

「さつすがこーき!話し分かるわー。じゃ、お邪魔しまーす

「邪魔するぜ」

玄関で立ち話するのもアレだからさつさと2人を部屋に上げる。部屋に入ると、翔は何故か不満げな声を上げた・・・つてお前は何がしたいんだ?

「まゆちゃんいねーの?楽しみにしてきたのに!」

「せつかくサンタのコス衣装持つてきたんだが・・・」

それぞれがてきとーな事いうから、なんか頭痛くなつてきたんだけど。

こいつら、さてはあまりに女つ(気ないから)つちに來たな。

「残念でした。アソシ今日はデートだから来ないぜ」

「さまーみるといつた感じで言つてやつた。

だが、それにそこまで落胆した様子を見せずに奴らはテーブルの上を物色し始める。

「・・・じゃあ、なんでこんなに料理がある？」

ぐわつ

「まあ、かわいい妹のために頑張って作った後に連絡でも来たんじゃね？マジ残念過ぎるし・・・」一きが

ぐわづさつ

「そんなとこか。じゃあ仕方がないからこの衣装は幸樹が着ればいいな。ちなみにミニスカサンタだ、喜べ」

・・・つておい・

「なんでオレがそんなことしないといけないんだ！」

「面白いから」

「・・・・・・・」

「こいつが、本当に何しにきたんだ！？」

「それはおいといて、俺らが来たから料理は全部片付く寂しくもないだろー。感謝しろよなつ！」

「ちゃんと酒とつまみも持ってきたしな」

袋から酒いろいろとスナック菓子を並べてる2人は全く悪びれも

ない。

なんというか、こいつらなりに氣を使つてるのは分かつてはいるんだがな。

「・・・幸樹、まだ何か作るものとかあるのか？そんなとこに突つ立つて」

悠が訝しげに言つてくる。奴はモヒート缶を開けようと立てる

しつて、準備早いだろ？が！

「いや、もう終わつて・・・」

「じゃあこいじゅんーさつせと飲もうぜーマジで飯美味そだしな

「

「・・・お前ら、本当にマイペースだな」

はあ、ってひとつため息ついてオレも席に着いた。テキトーな缶を開けてつて、あまりにも多過ぎやしないか?これ、20缶以上あるぞ、しかもビールばつかだし・・・。

「これ、麻友が居ること前提に買つてきてなくねーか?」

「だつてまゆちゃんから電話あつて、兄貴がきつと一人でさびしくシングルベルしてるから遊びに行つてほしつて」

「へ?」

「いい子だよな。彼女も居ない可哀想なお兄ちゃんに氣を使うなんてな」

「・・・お前にや言われたくないわ。というか、オレにはメールで翔には電話かよ」

つか、いつの間にメアド交換してるんだ、こいつ。

「あ、言つておくが俺もまゆのアドレス知つてるからな」

「もはや呼び捨てかよ」

「といふことで、今日は『びきつ 男だけのクリスマスー朝まで飲むぜスペシャル』をすることにしまーす!かんぱーい!」

「乾杯」

「・・・乾杯」

もはや何がなんだかわからないが、朝まで飲むらしい。

・・・メリークリスマス。

(後書き)

こんなクリスマスもある・・・かもしませんね(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8134z/>

聖なる夜に

2011年12月25日22時50分発行